

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2011年 10月 21日

派遣者氏名（専門分野）	川越 道子 （ 日本学 ）
-------------	---------------

派遣期間	2011年 7月 15日 ～ 2011年 9月 15日
------	-----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
アメリカ合衆国	サンフランシスコ	サンフランシスコ公共図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

サンフランシスコ公共図書館の本館は、シビック・センターの前、便利な場所にある。一般書をはじめ、サンフランシスコに関連のある移民やゲイ・レズビアン関係の蔵書が特に充実しており、3階には、各言語の蔵書が言語ごとに並べられた書架もある。今回は、主に本館6階にある「サンフランシスコ歴史センター」を利用した。

同センターは、サンフランシスコやカリフォルニアに関わる文献や貴重な史料を保有しており、地図やマイクロフィルムの資料も豊富である。同センターを含め、公共図書館の開架図書は自由に閲覧できるが、書庫の本を利用したい場合、図書の貸し出しを希望する場合、館外から図書館のウェブサイト上のE-libraryにアクセスして所蔵史料をダウンロードしたい場合などは、ライブラリーカードが必要となる。サンフランシスコ非居住者がライブラリーカードの発行を申請する場合、以下の手続きが必要である。

1. 図書館にある所定の用紙に記入。
2. パスポートなど、身分を証明できるものを図書館の1階のカウンターで提示。
3. 10ドルの手数料を払う。
4. 4種類のデザインの中から気に入ったライブラリーカードを選択。

ライブラリーカードの発行は10分程度で終了し、その日からカードが使用できる。有効期間は3カ月である。ウェブサイトでカードに記載された番号を入力すると、E-libraryが利用できる。

歴史センターでは、入室の際に鞆をカウンターに預けなければならないが、デジタルカメラの持ち込みは可能であり、複写する代わりに資料をカメラに収める人もよく見かけた。館内でのコピーも可能だが、コピー機の状態はあまりよくない。図書館司書の人からは資源節約の観点より、E-libraryから電子化した資料をダウンロードすることを勧められた。図書館司書は概して親切で、研究テーマに関する資料について適した助言をくれた。

サンフランシスコ公共図書館は、図書館としてだけではなく、地階の会議室でワークショップが（就職のための効果的な履歴書の書き方講座やジャズバンドの演奏などがあった）、展示スペースで小規模の展覧会（滞在時は文化大革命を機に中国から亡命した女性画家の絵が展覧されていた）が随時開かれており、文化センターのような役割を果たしていた。蔵書図書以外からも、サンフランシスコの多文化状況を体感することができる場所であった。